

あぶないと思ったこと

ぼくが通っていた保育園では、道をわたる時は「右見て。左見て。もう一回右見て。さつさとわたる。」と先生たちとかけ声をしてわたっていました。だから、ぼくは小さい時から保育園がいの時も、そのかけ声をしていたとお母さんが言っていました。

でも、ぼくが小学生になって大きくなると、だんだん声に出してかくにんすることをしなくなっていました。

とくに、友だちと遊んでいる時、友だちとはぐれないように急いでしまつて、小さい時のようにきちんと止まつてかくにんしていないこともあつたと思います。

そんな時、ぼくはお母さんといっしょに弟を保育園にむかえに行きました。帰り道、三人で歩いていると、横だん歩道もしん号きも何もない細い道を弟がとび出してしまいました。いつもはあまり車が通らないけど、その時はちょうど車が来ていて、弟はひかれそうになつてとてもあぶ

なかつたです。弟がぶじでよかつたけど、こんなあぶない目には二度とあいたくないなと思いました。やつぱりきんと「右。左。右。」のかくにんをしないとイケないと気がきました。

ぼくは、さいきんよく自転車にも乗ります。

「自転車は車にひかれないうちに気をつけなといけなけれど、人をひいてしまつたり、けがをさせたりしないようにすることも気をつけないと、すぐあぶない乗り物だ。」とお父さんはいつも言っています。前に、小学生が乗つた自転車が歩行者にぶつかつて大けがをさせてしまう事もあつたと教えてくれました。

ぼくの命を守るために、だれかをけがさせてしまうことのないように、交通ルールを守ること。急いでいてもかならず立ち止まつて左右をかくにんすること。当たり前のこととを、みんながきちんとつづけていくことで、きつと事はへらせると思うので、ぼくもわすれないようにしたいです。